

れに含まない。

3 麻薬・血液・ワクチン類および血清を調達したとき。

鉄道管理局長・鉄道病院長・鉄道診療所長または鉄道療養所長は上記の品目を当該経費をもって購入する。この物品についても、貯蔵品扱とせず、物品出納員が物品受払簿で受払整理をする。

4 歯科治療用の金属床を調達したとき。

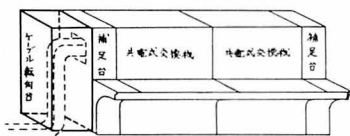
歯科治療用の金属床を調達したときも直決算品として取扱う(昭30・1・18公報依命通達)。

ただし、この場合は前述の直決算品と異なり現場購入の形式とはらず、地方資材部長、資材事務所長または鉱業所長が、単価契約の方法をもって納入と随意契約を行い、鉄道病院長および鉄道診療所長が必要の都度納入指定書を発行して、使用箇所に直納させる。

納入された場合は、貯蔵品勘定をとおさずに、直接に当該経費をもって支弁する。また金属床は納入と同時に患者に使用されるので、物品受払簿によって受払を行わず、納入指定書をもって受授を明らかにしておく。(清水光利)

ケーブルてんこうだい ケーブル転向台 (英)cable turning section 電話交換機内に屋内ケーブルを引込む場合、ケーブルラックまたはダクトから直接引下げ、または立ち上りによって交換機の側腹に引込むことは、外観の上からも、屋内ケーブルの保持の上からも適当でない。

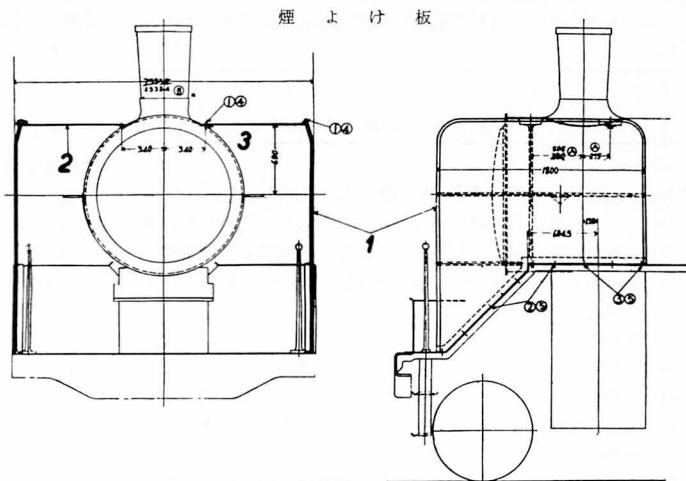
そのために一般に交換機または補足台の左端にケーブル転向台を設備し、図のように屋内ケーブルを一たんケーブル転向台に引入れて、その中で方向を転換し交換機内に引込む方法が行われている。(相原 茂)



ケーブル・ハット (英)cable hut たくさんの通信ケーブルが集まる所では1回線の切替および試験に便利ようにコンクリートまたは木製の小屋の中に配線盤を装置し、ケーブルを配線して置く。この小屋のことをケーブル・ハットという。(松下純二郎)

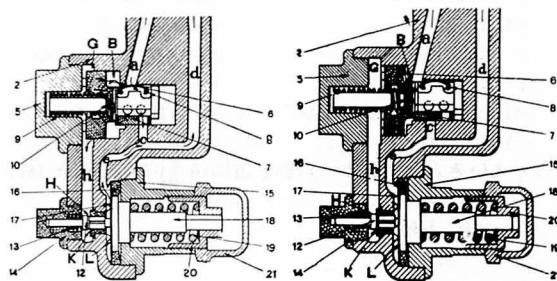
ケーブル・ヘッド (英)cable head ケーブルと架空裸線の継ぎ目、またはケーブルの分岐箇所等で電柱に取付けた丸形の配線箱をいう。中にはヒューズとマイカ・アレスターが装置されている。(松下純二郎)

けむりよけいた 煙よけ板 (英)smoke reflector 蒸気機関車の前部煙室の両側に取付けるびょうぶ形の板(図の照号1)をいい、進行中これによって煙突から排出されるばい煙やシンダの排気を上方に追いやり、下方に舞い下らないようにするものである。煙突から排出されるばい煙やシンダの排気は、機関車の乗務員にとって、前途の見通しを妨げるばかりでなく、運転室内にまで流れ込んで苦痛を与え、かつ乗客にも不快の感をいだかせるので煙よけ板を設ける。機関車の進行に伴い機関車前面にぶつかった空気は機関車前部にうず巻を生じ、煙突から排出される煙やシンダからの排気を下方に誘引するが、煙よけ板によって空気の流れを正し上方に追いやるので、ばい煙やシンダ排気も上方に誘導されるのである。はじめドイツで実施され、わが国においてはC54形(昭和6年製造初年)以降実施している。(高桑五六)



ばんあつべん 減圧弁 (空気ブレーキの) (英) automatic reducing valve (air brake) 元空気だめからある一定の圧力に調整された圧力空気を取り出す一種の調圧弁。

1. 減圧弁 2. 減圧弁



空気ブレーキ装置とくに自動空気ブレーキ装置の作用は、常に一定範囲のブレーキ力とゆるめ作用の確実なことが要求されるため、これに使用する空気源の圧力を常に一定に保持しておくことが必要である。元空気だめ圧力のように常に変化しているものを空気源として直接ブレーキに使用すれば、空気の圧力変化によって作用する制御弁をもつ自動空気ブレーキ装置においては、ブレーキ作用が不安定となるので、ブレーキ装置が定位にある場合、すなわち列車運転中は列車管圧力を一定に保持しなければならない。減圧弁はこの一定圧力の空気源を得るための弁で、空気ブレーキ装置にとってこの弁の信頼性は非常に重要なことである。構造は供給部と加減部とからなり、調整ねじにより簡単に調整できる。

圧力調整原理としては、ばねの背圧を加えられた膜板(17)とこれに抗する空気圧力とのつり合いによってパイロット弁(12)を作用させるもので、供給側通路が開かれている場合、加減部にある加減ばね(19)によりある一定の力で押えられている膜板が、被供給側(d)の圧力の微妙な変動により動き、パイロット弁を作用させることによって供給側(a)の大きな空気通路(c)が開閉され、圧力空気を供給あるいは阻止することにより、被供給側の圧力を常時ほとんど一定に保持できるものである。

減圧弁の圧力は一定の範囲で調整できるが、常時ある範囲の間をかぎってハンドル車を素手で簡単に調整圧力を変更できるようにしたものもある。普通減圧弁といえば前者を意味し、後者は給気弁とよばれる。構造作用は加減ハンドルの部分以外、両者はほとんど同じである。